

京都府八幡市の八幡中央病院と京都八幡病院、精華町の学研都市病院の3病院を核として、介護保健施設や特別養護老人ホームなど、複数の医療・介護サービスを提供している「医療法人社団医聖会」。

その歴史は1978年、真鍋整形外科医院の開設から始まる。「私の父が八幡市に開いた小さな診療所です。人口がどんどん増えている時代でしたから、開設当初から入口に患者さんの靴があふれているような状況でした」と真鍋由美理事長は言う。そのため3年後には50床の病院に規模を拡張、さらにその3年後には150床に増床し、八幡中央病院に改称する。

1994年には新たに186床の京都八幡病院を開設。真鍋理事長は「医療業界全体が高度成長をしていた時代でした」と振り返る。

そうして地域の発展とともに成長していった八幡エリアの医療・介護はやがて転換期を迎える。

「いずれの病院も当初は急性期を中心で、入院・治療を

地域の变化とともに  
医療のあり方を変える

真鍋由美(まなべ・ゆみ) / 川崎医科大学。京都大学医学部附属病院で初期臨床研修。専門分野は泌尿器科一般、女性泌尿器科。日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医、INTUITIVE 社認定ダ・ヴィンチコンソール術者

でもとの生活に戻るとい形でした。それが地域の高齢化が進み、回復期・慢性期を中心とした医療と介護サービスがウエイトを占めるようになっていきました」。

そこで現在は、さまざまな施設と連携をはかりながら高齢者が安心して暮らすことができる医療・介護体制づくりに注力。新たに介護医療院も開設した。

\* \* \*

「筑波研究学園都市」とともに、国家的プロジェクトとして開発された「けいはんな学研都市(関西文化学術研究都市)」。そこに医聖会が学研都市病院を設立したのは2006年のこと。自治体などからの要請がきっかけだった。

病院を訪れると、まず近代的でスタイリッシュな外観に目を奪われる。一步、中に入ると、吹き抜けで広々としたロビーが迎えてくれる。フロアの随所に大きくとられた窓が設けられ、豊かな自然を望むことができる。

「八幡中央病院がそうだった

学術研究都市ならではのスタイリッシュな外観の学研都市病院。病床数/300床(一般病床96床、医療型療養病床50床、回復期リハビリテーション病床100床、地域包括ケア病棟54床) 診療科目 / 整形外科、泌尿器科、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外科、脳神経外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 健診センター、脊椎・脊髄センター



院内はたっぷりスペースがとられているのが印象的。至る所に窓が設けられ、自然の景色が目に入るようになってい。病院の前の通りはメタセコイヤ並木。緑あふれる中で過ごすことができる。



医療法人社団 医聖会  
https://iseikai.jp

医療

八幡中央病院  
京都府八幡市八幡五反田39-1

京都八幡病院  
京都府八幡市川口別所61

学研都市病院  
京都府相楽郡精華町精華台7-4-1

介護・福祉

介護老人保健施設 石清水  
京都府八幡市川口別所66

介護老人保健施設 とちのき  
京都府相楽郡精華町精華台7-4-1

介護老人保健施設 梨の里  
介護医療院 梨の里  
京都府八幡市八幡柿木垣内25-1

社会福祉法人 京都山城福祉会  
特別養護老人ホーム ゆりのき  
京都府木津川市木津川台1-19-1

サービス付き高齢者向け住宅  
テラザートさくら  
京都府八幡市八幡月夜田3-1

職員用託児所

職員用託児所 たんぽぽ  
京都府八幡市川口別所67-1

職員用託児所 ひまわり  
京都府相楽郡精華町精華台7-4-1



リハビリテーションルームも広々として心地いい空間。右の写真は株式会社国際電気通信基礎技術研究所の足関節ロボット。学研都市病院が開発に協力している。

ように、学研都市病院も開設当時は人口増加率が高い地域でした。少子高齢化の現在でも人口流出が少なく、若い世代が引越してこられることも多いですね」。

その上、山城南医療圏にあたるこの地域は奈良、大阪京都のちようど間になっていて病院の数が少ない。学研都市病院には急性期の機能が必要とされている。

「とはいえ、八幡がそうだったようにこの先、回復期・慢性期のニーズはより一層高まっていくと思います。そのため、リハビリテーションの施設やスタッフの充実をはかっているところです」。

地域のニーズに対応しながら、変化を見据えて医療・介護の方向性を変えていく。常に地域とコミュニケーションをとりながら、ともに歩んでいくことが大切なのだろう。